

が8月2日から8月12日、「ひとめぼれ」(慣行栽培)が8月10日から8月12日、「ひとめぼれ」(有機栽培)が8月10日から8月13日であった。収穫は9月15日から開始して10月20日に終了した。今年度の10a当りの平均収量は460kg(平年収量\*479kg)であった。

今年度は3月11日に起こった地震の影響のため、例年であれば3月10日頃から開始している育苗準備が7日遅れの3月17日からの開始となり、播種の開始も遅れてしまった。しかし、職員全員の協力があり優先的に作業を進めることが可能となった。その結果、作業の遅れを取り戻すことができ、播種もほぼ予定どおりに終えることができた。

また、課題であった雑草防除に対しては、昨年は除草剤のみの防除であったが、今年度は昨年度末に購入した除草機(田植え機に取り付けて乗用除草機として使用する)を主体にした防除を行った。また、雑草発生が多く除草機だけでは防除しきれなかった水田では除草剤を併用して使用した。これにより昨年以上の雑草防除効果が見られ、平均収量も平年に近い収量であった。

来年度も引き続き乗用除草機と除草剤による雑草防除に取り組んで行く予定である。

\* 平年収量は平成12年から平成22年までの平均収量(平成15年は冷害のため除く)

## 2) 畑作および果樹(表6-2, 表6-3, 図6-1)

### (1) バレイシヨ

21-1号圃場(38a)に堆肥と鶏糞肥料のイセグリーンのみを施肥し、化学肥料を利用せず作付した。5月11日に男

表6-2 平成23年度水稲及び畑作物の10a当たり収量

作 目	平成23年度収量		平年収量 (kg/10a)
	(kg/10a)	指数(%)	
水 稲	460	96	479
バレイシヨ	2,502	186	1,349
ゴボウ	661	98	673
ニンジン	782	63	1,235
ナガイモ	1,847	75	2,477
種子用ナガイモ	1,202	115	1,047
姫神イモ	1,623	59	2,731
ツクネイモ	730	72	1,012
ブルーベリー	240	65	369
ルバーブ	96	88	109
ウメ	36	88	41

\* 水稲の平均収量は、過去10年間の平均。

\* イモ類・根菜類の平均収量は、過去5年間の平均。

\* 姫神イモの平年収量は、前年値。

\* ブルーベリーは1995年・1999年植え付け圃場の平年収量で、過去3年間の平均。

\* ルバーブの平年収量は、過去3年間の平均。

\* 梅は調査木3本の平均収量で、過去5年間。

爵および実習用にワセシロ・キタアカリ・メークインを植え付けた。8月2日に学生実習で、8月9日に全体作業で収穫を行った。そうか病・疫病の発生が少なく、総収量は9,507kg(2,502kg/10a)と例年より多収となった。

### (2) 根菜類

ゴボウ・ニンジンそれぞれ7.5aを3号圃場に作付した。6月20～21日に真正国分鮮紅大長人参、滝野川を播種した。

ニンジンは11月4日に収穫し総収量は586kg(782kg/10a)、ゴボウは11月7～11日に収穫し総収量495.8kg(661kg/10a)であった。

### (3) 根菜類(イモ類)

3号圃場にて種子用ナガイモ1.2aとナガイモ成イモ7.2a(品種名:トロフィー1066)及びツクネイモ2.4a(品種名:丹波やまのいも・大館やまのいも)、姫神芋を6月13～20日に定植した。

ナガイモ成イモは11月28～12月2日に収穫し、総収量は1329.9kg(1,847kg/10a)であった。種子用ナガイモは10月25日～27日に収穫し、総収量は144.2kg(1,202kg/10a)であった。ツクネイモは10月17日に収穫し、総収量は175.1kg(730kg/10a)と平年よりも低下した。

昨年度より栽培をはじめた姫神芋は、ナガイモ成イモと同時に収穫し、総収量は194.7kg(1,623kg/10a)であった。

### (4) ウメ

平成23年冬期間中に管理作業として剪定作業を行い、収穫前には樹木下の下刈り等を行った。

ウメの開花は4月21日咲き始め、満開は5月7日であり、平年より少し遅れ気味であった。そして、6月27日～7月7日に収穫作業を行った。総収量は528kgで平年並みであり、売払い収量は264kgであった。

### (5) ブルーベリー

ブルーベリーの開花は、5月9日にパトリオットの開花から始まり、5月17日のスパータンまで続いた。23年度は7月5日から収穫作業を開始した。

オウトウショウジョウバエの発生源となる腐敗果実を樹園地内に放置しないよう収穫し、さらに除草作業を徹底した結果、被害果実は昨年同様少なかった。

22年の年末の大雪で、剪定・冬囲い作業が中断され、雪の重みでブルーベリー樹木が折れる被害が発生した。このことが、今年度の収量に影響したと思われる。今年度は、例年より早めの10月下旬から11月中旬に剪定・冬囲い作業を行うように努めたい。

総収量は402kgであり、上述の大雪の被害で、昨年より約一割減少した。そのうち48kgを生売り販売、残りの303kgを冷凍保存してジャム生産にあてた。また今年度は、一昨年の大雪の被害のため、平年の総収量(558kg)の72%であった。

### (6) ルバーブ

4月、3号圃場の除草作業後、くみあいMMB 隣加安14